

Blackboard@Tamagawa 活用事例

01 文学部比較文化学科非常勤講師：狩俣恵美先生

英語のコミュニケーションの強化を目的とした活用

狩俣先生は、英語・英米文学を専門分野に、芸術学部や工学部の英語コミュニケーション・English Communication III・Listening Skills・総合英語Ⅰ～Ⅲなどを担当されています。Blackboard@Tamagawa（以下 Bb）のコースでは、アナウンス、講義資料や音声・動画教材の掲載、課題提出や評価結果のフィードバックなど様々な機能を活用されています。

今回は、授業中は学生に積極的に英語で会話をさせコミュニケーションを図ることに集中させることを目的に、授業時間外の学習として Bb を有効活用をされている事例を紹介いただきます。



科目の実施規模と講義での Bb の活用

◆科目名：英語コミュニケーション

（工学部 2 年生 27 名・芸術学部 1 年生 18 名）

◆授業概要：これまでに養ってきた英語力を基礎として、テキストやスピーキング練習を通して自分の言いたい事を十分に表現できるよう実践を重視し、異文化の慣習やマナーなどを理解しながら、それに沿った表現方法を習得する。授業時間外の学習として、Bb に講義資料を掲載したり、課題提出を行うなど、定期的なアクセスを学生に促している。

英語コミュニケーションについて

この科目は英語でのコミュニケーション能力を伸ばす事を目的としており、リスニング・スピーキング中心の演習を行っています。実践を重視し、授業ではテキストのトピックを中心に学生同士の会話練習やロールプレイや様々な形式のスピーキングテスト（講師と一対一で行うインタビュー、スピーチ、ペアやグループによ

るディスカッション等）、学期末に行うグループ・パフォーマンスなどを通して、英語で十分に自己表現できるように訓練します。

リスニングに関しては、テキスト付属の CD や映画などのビデオ教材を使用した演習を行って、本物の英語に慣れ親しむようにしていますが、会話練習と比較すると発話が少なく受け身な活動になりがちのため、授業内で割く時間を極力抑え、Bb 上に課題を載せて提出させる事により、授業外での自習を促し、聴く力を強化しています。

具体的な機能の活用

主に利用している Bb の機能はアナウンス、音声・動画ファイルを含む教材や資料の掲載、課題提出です。コースメニューは学生に分かり易いように細かく分け、名称もコース仕様に變更し設定しています。（「ガイドライン」「課題」「音声」「スクリプト」等）アナウンスは毎週更新して授業内容や課題についての連絡事項を

掲載し、特に課題の提出と受領をスムーズに行えるように積極的に活用しています。



図1. メニューボタン

課題提出では、表示期間を設定し、提出を一回のみに限定することにより緊張感が生じ、提出率が上がります。またBbは、提出された課題の評価結果をフィードバックする機能があります。この授業では、ヒアリングをして、英語の穴埋めと日本語訳を書くという課題が多いのですが、個別に間違っている部分を指摘することが出来ます。課題提出は週に1度行っています。提出された課題へのフィードバックは早急に行うよう心掛けています。

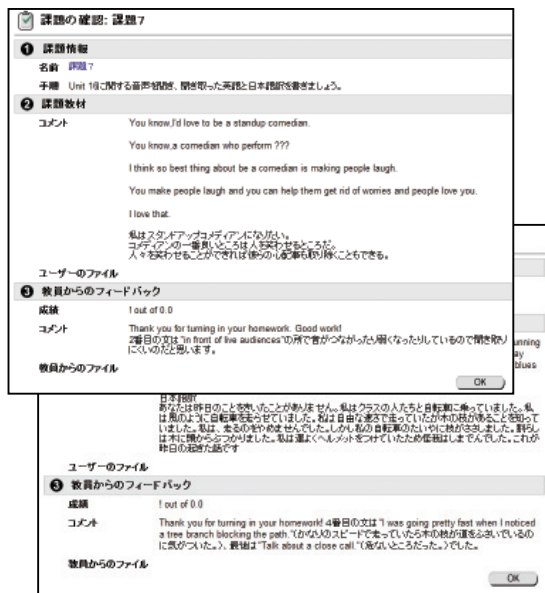


図2. フィードバック

Bbを活用するメリット

まずは、授業時間の有効利用です。限られた授業時間の中で、連絡事項の伝達や課題の説明を行う時間と労力を省くことができます。さらにアナウンスを一斉メールで配信することにより、より確実に学生に周知させることができます。

す。

次に、教材配布の容易さがあります。課題プリントや資料を簡単に掲載することができ、音声教材でヒアリングの練習をさせることもできます。学生は授業内では難しかった音声教材の反復練習が可能となり、自分のペースで課題に取り組むことができます。

さらに、学生とのコミュニケーションの促進、意欲・習熟度の把握についてですが、「成績センター」や「パフォーマンスダッシュボード」から学生の最終アクセス日などを確認して、授業に対する積極性をチェックし、平常点に反映させることも可能です。

何よりも、課題やメールのやり取りを通して、学生一人一人と授業外で対話を続ける事が、結果的に、授業運営や学習環境に良い効果をもたらしていると実感しています。

氏名(ローマ字)	氏名(漢字)	ユーザー名	担当	最終コースアクセス	最終コースアクセスからの日数	レポートアップロード	成績リレー
KARIMATA Emi	狩馬 恵美	karimata	教員	2009/12/07 13:08:33	2	0	0
			受講者	2009/12/06 8:34:38	4	0	0
			受講者	2009/12/07 3:00:38	3	0	0
			受講者	2009/12/07 0:03:50	3	0	0
			受講者	2009/12/04 21:54:11	5	0	0
			受講者	2009/10/25 16:01:34	45	0	0
			受講者	2009/12/07 21:46:13	2	0	0
			受講者	2009/12/06 17:57:03	3	0	0
			受講者	2009/12/06 23:34:58	3	0	0
			受講者	2009/12/06 0:31:51	2	0	0
			受講者	2009/12/06 21:50:08	3	0	0
			受講者	2009/12/07 0:31:50	3	0	0

図3. パフォーマンスダッシュボード

今後に向けて

リスニング教材の開発にあたっては、ビデオ素材を用いることが多く、学生からの要望もあり、動画教材をより頻繁に取り入れたいと常々感じています。学生のグループ・パフォーマンスをビデオ撮りした動画を載せる事はありますが、自作でないものに関しては、著作権の問題があるためなかなか踏み切れない部分があります。著作権フリーの素材を使用する、表示期間を短く設定するなどの他、今後も良い方法を模索していきたいと思います。また、科目の種類や学生の英語力に応じてグループやディスカッション機能を活用する事も検討中です。

大学推奨パソコン「愛情点検」実施

02 Panasonic 専門技術者による点検・修理

パソコンには故障とまで言えないものの「動作がいつもより遅くなった」などの軽微な不具合はつきものです。学生が使用する MyPC も例外ではありません。そこで、IT サポートデスクでは、今年も大学推奨パソコン「愛情点検」を実施しました。この点検は、Let's note の小さな疑問やハードウェアに関するトラブル解決のため、Panasonic の専門技術者により点検・修理などを行うもので、Let's note が推奨機種に採用されてから 2 回目となります。学生の相談もハードの不具合から便利な使用法まで様々でしたが、担当した技術者のかたの話に、たいへん熱心に耳を傾けていました。



図 4. 「愛情点検」の様子

IT サポートデスクでは、常時 MyPC に関する質問を受けております。MyPC について困っている学生を見かけましたら、IT サポートデスクに足を運ぶようにご指導をお願い致します。

平成 22 年度 MyPC 推奨モデル

03 Panasonic Let's Note (Windows 7 搭載)

次年度(平成 22 年度)の MyPC 推奨パソコンが決定いたしました。

e エデュケーション推進部会において各学部の先生方にもご協力いただき、推奨パソコンの選定作業が、メーカー 5 社のコンペ形式により行われました。

検討の結果、Panasonic 社製「Let's note S シリーズ(2010 年春モデル)」に決定いたしました。このモデルは携帯性に優れ、高性能と高い信頼性のモデルである Let's note S 8 の後継機となります。先生方も私費もしくは研究費での購入が可能です。

例年、入学者の約 70% の学生が「推奨機」を購入しています。



図 5. Let's note S シリーズ

平成 22 年度 芸術学部推奨モデル

04 Apple Macbook/Mackbook Pro (Mac OS X 10.6 搭載)

芸術学部は、デザイン制作ソフト(Adobe 製)、アニメーション制作ソフト(Autodesk 製)、ビジネスソフト(Office 製品)等が必要となります。そのため、芸術学部に関しては、専攻に応じて、ハイグレードモデル(MacBook Pro)とスタンダードモデル(MacBook)の 2 モデルとなります。



図 6. MacBook Pro

Blackboard Tips

アナウンス、コンテンツの表示期間設定

◆ 表示期間の設定について

アナウンス、講義資料や課題等に表示期間の設定を行うことで、学生に不要になった情報を非表示にしたり、課題の提出期限を設定することが出来ます。アナウンス、項目、課題等の追加ページのオプションで「表示開始日」と「表示終了日」にチェックを入れ、期間を指定して下さい。どちらか片方だけの設定も可能です。

図 7. 表示期間の設定

午前・午後の 12 時 00 分設定は、実際は何日の何時になるのか？というお問い合わせをよくお受けします。下図をご参照下さい。ここでは、1 月 1 日を例としてご説明しています。

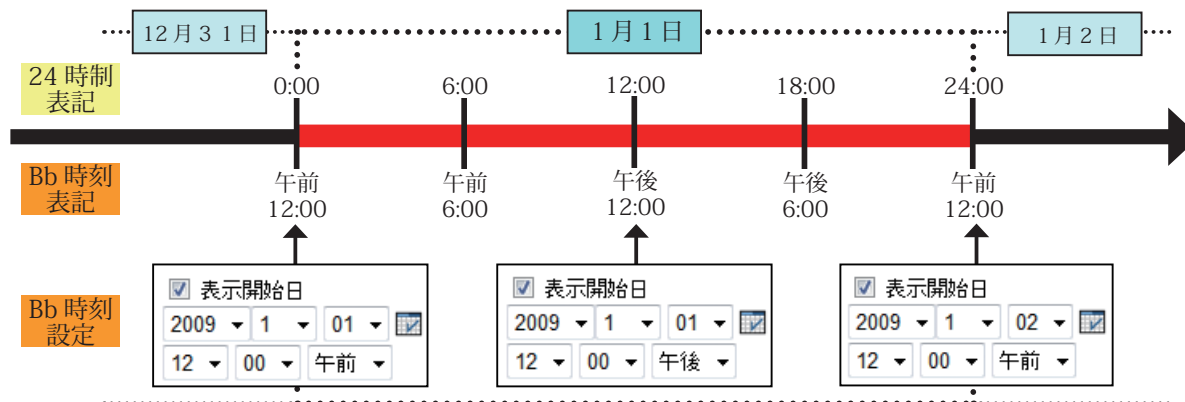


図 8. Bb の午前・午後 12 時扱いについて

「12 時 00 分」の使用は、自身が設定したい時刻と異なる可能性が高いため、午前中は表示して午後は非表示にしたい場合には、表示終了日を「11:55 午前」にするなどの、前後の時刻に設定することを推奨させていただいています。

編集後記

今回は、狩俣先生に「英語コミュニケーション」の活用事例を報告頂きました。学生対象の学期末アンケートの回答において、提出した課題へのフィードバックは高い期待と評価が集まっています。

また、かねてよりお問い合わせをいただいております「表示期間の設定」について掲載いたしましたので、参考資料としてご活用くださるようよろしくお願い申し上げます。

e-Education NewsLetter 2009 Vol.4

2009 年 12 月発行

玉川大学

e エデュケーションセンター メディア教育推進室

東京都町田市玉川学園 6-1-1

Tel : 042-739-8820

Fax : 042-739-8825

e メール : bbhelp@tamagawa.ac.jp